

上下白の衣装に、首には黒のマフラー、そしてお手入れの行き届いた整った眉毛。六本木のクラブでマダムキラーと呼ばれてもおかしくないいでたちでステージに現れたのは、カプセルのボーカル菅野隆。普段こんな格好の人を見ると思わず“バッカじゃないの”と吹き出してしまう。しかしそんな気持ちを一瞬にして正させ再びステージに向き直させたのは、菅野隆が発している“気高さ”。

“汚れちゃったって問題ねえぜ、そんな気持ちと、俺は絶対汚れねえぜみたいな強さに憧れるそういう気持ち。そんな矛盾した気持ちを僕は抱えて生きてます。それがカプセルの愛と誇り（11月3日渋谷ラママのMCより）”と菅野は言う。カプセルには、せめぎあいの潔さがある。ステージを観ていていつも思う

capsule

ことは嘘がないということ。それは嘘をつかないということではない。矛盾した気持ちを抱えながらも、うやむやにになってしまう人が多い中で、それをきちんと認めて向き合っている誠実さということ。その気持ちをなくさないで生きていこうとグッと思い留まる精神力の強さは気高さとなって発せられている。

～譲れないものがあって僕はここにある～と歌う菅野を観ながら、菅野が身にまとっている白は、無垢な白でも純白の白でもなく、サンクチュアリの象徴であることを思い、白い衣装が下品にならず気品あるものになることを納得した。

(SUMIKO)



SYNTHETIC MUSHROOMS

SET OUT



うまくいかないことが続くと自信を失って、自分の存在価値を自身に問い直す。それは特別なことではなく、そんな機会がきっとこれからの道程の中で幾度となく訪れる。

今までそのたびに落ちこんだり、塞ぎこんできたけど、この曲は“それが生きてくって

こと”って答えを出してくれた気がしていきなり心が軽くなった。心がいきづまっていればいるほど、その力を前向きにシフト・チェンジしてくれる曲は300円。

(SUMIKO)